

東村山稲門会ニュース 第38号

H / 2 年 5 月 / 3 日 発行

発行責任者 人西 幸夫

編集局 塩見 田口

井垣 伊藤

事務局、042-394-6951 小亀 輝雄

会からのお知らせ

◎. 平成12年6月定例役員会の案内

日時：6月3日（土） 14.00～14.30 発送準備（有志による）
14.30～16.30 役員会

場所：富士見公会堂、第2集会所

なお、一般会員の方も時間の都合のつく方は気楽にご参加ください

◎ 会員消息

会員ご子息の結婚

滝川正義さん・桜子さんご夫妻の長男、一正さんが5月7日（日）に池袋シャンサイン・シテール プリンズホテルで華燭の典を挙げられました。心からお幸せをお祈り致します。

◎ 他稲門会への出席

① 4月15日（土） 関東台湾稲門会総会兼日台交流大会

。日本プレスセンター 三宅出席

② 4月15日（土） 東久留米稲門会定例総会

東久留米成美教育会館 人西、小亀出席



第4回 オール早稲田文化週間

5月15日から21日にわたり、第4回「オール早稲田文化週間」が開催されます。この文化週間は「早稲田文化」の開拓・創造とさらなる発展を希望して設置され、昨年は3万5千人もの人が来場したそうです。今年も大橋巨泉・浜尾朱美・小川範子さんの講演や「早稲田寄席」さらに各種シンポジウムなどが行われます。また、模擬講義や地域商店会によるイベント、映画会なども行われます。

展示企画では大学史資料センターの「相馬御風没後50年記念展」や会津八一記念博物館の「会津八一墨跡展」演劇博物館の「川上音二郎展」など普段はなかなか見られない展示も行われます。

「問い合わせ先」早稲田大学・学生生活課 03-5286-1836

人間科学部デー

人間科学部（所沢キャンパス）では、地元とのつながりを持つ開かれた学部を目指して、5月17日から21日までの期間を「人間科学部デー」として、学生や教職員だけでなく、広く市民の方々も一緒になって参加できるイベントを行います。当稲門会にも案内を頂いておりますので、お時間がある方は是非ご参加ください。（詳細は別紙プログラムを参照下さい）

早稲田大学創立125周年記念事業募金について



皆様ご承知の通り、早稲田大学は2007年に創立125周年を迎えます。

本会としても21世紀に世界の早稲田に躍進して欲しいとも願いをこめて、協力することとし、昨年の総会で来年度から会費年間3千円を2千円値上げし、年間5千円とし、値上げした2千円を募金に充当することを決めて頂きました。本会では徴収した募金分を一括し年一回「125募金推進室」へ振り込みますが、これにより個人宛に礼状・領収書・非課税の証明書が届くことになります。また広報などにも個人名が公表されます。大学としての希望は「個人は一口1万円。複数口を8年間継続して」ありますので、この2千円以外に個人的に寄付された分もすべて個人分として集計・累計されます。他の稲門会でも本会と同様な動きがあり、是非とも皆様のご理解・ご支援をお願い致します。

記念事業の概要

今回記念事業として選定したものは、緊急を要し、かつ社会的意義が高いと思われる8事業で、総事業費480億円を予定している。このうち募金対策事業を3事業とし事業費360億円を考えたが、昨今の経済環境のもとでの募金は大変に厳しく、募金額を200億円とし、差額は自助努力により準備することとしました。募金対策の3事業は①インテリジェント教育研究棟2棟の建設 ②新学生会館の建設 ③大隈講堂の新しい時代への再生

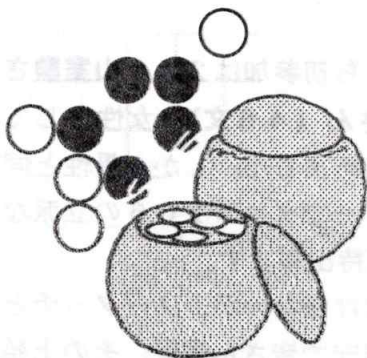
募金概要

- ①募金目標 — 200億円 ②募金の対象 — 教職員・校友・在学生父母・一般篤志家・企業等
- ③期 間 — 個人 2000年4月～2008年3月
法人 2001年4月以降を予定
- ④募金方法 — 一括方式・分割方式を選択 ⑤ 募金の種類 — 一口1万円 複数口継続を希望

囲碁・将棋の会

幹事：鈴木 国夫 Tel042-394-2052
：江藤 昌明 Tel042-391-4076

第6回会合のお知らせ



第5回囲碁・将棋の会を4月22日午後1時より東村山市民センター第4会議室において開催しました。

初参加の丸本1級(将棋三段)、小竹4級、大西7級を加えた12名が熱戦を繰り広げました。

碁盤が不足し、専ら観戦に廻った人がおりました。碁盤をお持ちの方は是非ご持参下さるようお願い致します。

次回は下記のとおりですので、会員の皆様奮ってご参加下さい。

記

日時：6月24日(土) 午後1時～5時

場所：東村山市民センター第5会議室

郷土史の会

幹事：三宅 良太 Tel042-394-5298
：江藤 昌明 Tel042-391-4076
：小亀 輝雄 Tel042-394-6951

玉川上水を歩きませんか



平成12年第2回目の郷土史の会は玉川上水を歩きながら史跡を探访することになりました。

今回は玉川上水の起点としての羽村堰から失敗堀の名の有る拝島の水喰土公園までのんびりと歩いてみることにしました。羽村の郷土資料館を見学し、河原で昼食をとりながら初夏の一日を楽しんでみませんか。

日時：5月21日(日) 9時～16時頃迄

集合：9時 東村山駅改札前

東村山  小川  拝島  羽村 20分 羽村郷土資料館
徒歩
10分 河原で昼食 福生加美上水公園を経て水喰土公園・拝島  東村山

(この間約5kmですが場合によってはJRを利用します)

持ち物：弁当・飲み物・シート等・歩きやすい軽装で(帽子もお忘れなく)

○第7回会長杯コンペ 高杉修さん（32教育）優勝！

第7回コンペ成績

順位	選手名	アイ ウ ト	合 計	ハン デ	ネ ット
1	高杉 修	55	49	104	28 76
2	谷城 長治	53	51	104	28 76
3	津野 慶浩	51	47	98	21 77
4	益田 易	48	48	96	17 79
5	大野 恵子	55	51	106	26 80
6	田島 隆夫	56	53	109	26 83
7	山室 勲	56	49	105	20 85
8	井垣 和太	52	50	102	16 86
9	土橋 雄次	56	56	112	26 86
10	松永 常尚	57	62	119	32 87
11	三宅 良太	54	57	111	23 88
12	木谷 肇	60	56	116	28 88
13	深川 勝昭	58	51	109	18 91
14	大西 幸夫	60	62	122	29 93
15	佐藤 守彦	62	63	125	22 103

同ネットは①ローハンデ②高年齢順

遂にジंकスが破られました。4月18日（火）飯能グリーンカントリークラブ（飯能市）で開催された第7回コンペは朝から雲一つない快晴。半袖のウェアでもよいくらいの暖かさの中、平日とあってゆったりしたプレーが出来ました。

今回の参加者15名のうち初参加は2名。山室勲さん（31理工）と大野恵子さん（46文）。女性として初登場の大野さんが注目を集めました。しかも男性と同じレギュラーティからのプレーでグロス106の立派な成績で今後の活躍が大いに期待出来ます。

天気とコースは文句の付け様ないが、ノータッチと完全ホールアウトのルール遵守で皆さん苦戦。その上殆どどのショットも微妙な傾斜からであり、速いベントグリーンでパットも難しく、アウト・インともに40台で回ったのは前回優勝して当コース紹介者の益田易さん（36法）唯一人。48・48でベストグロス賞も取って実力者ぶりを発揮。

結果、晴れの優勝カップをゲットしたのは、第6回から登場し2戦目の高杉修さん（32教育）。今年初のラウンドで優勝とは、俳句とともに実力は一級品。

準優勝は同ネットながら年齢差でトップを逃した、麻雀同好会でも活躍中の谷城長治さん（37商）。3位には回数をこなして安定している津野慶浩さん（36商）

が1打差で入賞。ブービー賞は「優勝もないがブービーも初めて」の大西幸夫さん（30理工）。

大野さんは、ハンデ26で堂々の5位に食い込み、木谷さん寄贈の特別賞を獲得しました。ドラコン賞は2ホールとも第1組でそれなりの距離を出した益田さんが独占。ニヤピン賞はこれ又益田さんと、大野さんの折角のチャンスを最終組で潰した井垣和太（37商）の二人。（2ホールは誰も乗せられず。）

恒例のパーティーもおおいに盛り上がりましたが、前回のコンペでホールインワンを出した深川さんから参加者全員に記念品が贈られ、より楽しい集いになりました。

第8回秋期コンペもウィークデイでやろうよとの声も出ましたが、仕事の都合で土日でなければやれない方たちの事も考えるべきとの正論もあり、次回幹事役の高杉さん、大西さんと井垣世話役に一任ということになりました。

幹事役の益田さん、三宅さんご苦労様でした。

（井垣 記）



4 / 18 第7回会長杯ゴルフコンペに勢揃いしたゴルフ同好会の皆さん

☼ ウォーキングの会

幹事：町田 和夫 ☎394-2438

市内のウォーキングを通して、八国山緑地・史跡・知られていないナイススポットを探
索し、街を再発見していきながら、会員相互の親睦を図ることがこの会の目的です。

日頃の運動不足の解消もかねて、実際に気楽な気分でも市内・近郊を歩いてみたいと思
います。

今回は、第5回目として「下記のコース」（市の西部）を設定いたしました。〔車の通
らない道を選びました。空堀川沿いに歩き、多摩湖を一周するコースです。〕

まだ面識のない会員の方々にも、是非、ご参加いただき、ウォーキングを通して会員相
互の交流、健康の維持につながれば幸いです。

参加ご希望の方は、当日、下記場所へ集合願います。

※1 日 時 5月27日（土） 10時～15時

※2 集合場所 久米川駅南口広場 10時

※3 持ち物 お弁当、水筒、敷物

※4 当日、小雨の場合は中止いたします。

〔コース〕 久米川駅南口10時 → 空堀川 → サイクリングロード → 狭山公園 → 4km第1堤防
11時 → 周遊路 → 7km第2堤防12時（お弁当・昼寝12時～13時30分） →
周遊路 → 第1堤防・狭山公園 → 12km西武園駅15時 解散 （町田記）

麻雀同好会のご案内

本年第二回麻雀大会を下記にご案内いたします。例によって表彰式後はまた懇親会で一杯やりながら楽しいひとときを過ごしましょう。

初参加の方お待ちしております、大歓迎です。

記

日 時：6月18日（日）12時30分

申込締切：6月9日（金）

場 所： マージャンM

本町 4-12 アメニテイパレス B1

TEL: 397-5228

会 費：6千円（競技代、賞品代懇親会費用すべて含）

小野（391-9523）

田口（395-4077）

以上

山とハイキングの会、第6回山行レポート

◎初夏のように暖かい一日、予定通り高尾山に登ってきました。

実施日：4月23日（日）曇り時々晴れ、午前10時30分出発、午後2時40分下山

参加者：森、額賀、土橋、成田、市川久美子、町田夫妻、同母上、久保、計9人。（敬称略）

尚、次回の山行は6月もしくは7月を予定しています。ご期待下さい。また今回の山行の感想を成田氏にお願いしました。

「4月下旬にしては蒸すぐらいの感じの朝、京王線高尾山口駅に降り立ちました。空は高曇り、気温22度（推定）湿度70パーセント（推定）総勢9名。高尾山々頂599Mまで約2名の方を除き全員ケーブルカーなし徒歩でメインルート（1号路）3.8Kmをとりました。高尾登山なんて、と云う軽い気持ちで参加した割にはしっかり歩いた感じでした。昼食は山頂で全員が仲良く楽しく摂りました。土橋さんから全員に今後の山歩きの記録写真を納めるアルバム帳が配られ、皆大喜びでした。帰りは沢のせせらぎに沿って下る「びわ滝コース」でした。途中びわ滝、岩屋大師などを見ながら、3.3Kmを50分で下りました。ちなみにこのコースは下り70分が標準です。今回参加の全員が健脚と云ううれしい結果でした。」（昭32年理工卒）

編集後記

- ◎ 「同好会だより」の内、テニス同好会は5月は休会との知らせがありました。

欠落ではありませんので、念のため。

- ◎ 上記と同様に、絵画同好会は3月から4月のスケッチ・シーズンが終わり個別制作時期に入りました。筆者は3月四国へ出掛け桂浜と足摺岬をスケッチしました。

東京の密集した市街地を見慣れた眼には街道沿いの四国の建物の清潔さは新鮮で、宿で出された鰯の味と共に強く印象に残りました。酒の味については言うまでも無く。美味でした。

作品として絵がまとまるのは秋頃になります。

今年四月から筆者は東村山市美術連盟の役員を依頼され月2回の絵画教室に顔を出すことになりました。日曜日に中央公民館の美術工芸室を無料で使うためには市民団体に加わるのが早径です。モチーフ代が若干掛かりますが、関心がある方はご連絡下さい。

見学は自由です。

- ◎ 先月発行された本紙第37号および今月の第38号に、ニュース編集担当の伊藤さんと井垣さんの「同好会ニュースの将来の展望」に関する記事が掲載されました。

筆者の早稲田に於ける職歴は戦争の被害を受けて壊滅した理工学部電気工学科第二分科学生実験室の再建から始まり、その後同学科が電気通信学科、電子通信学科と改称されるに従い時代の波に乗って電子・情報の先端を歩む幸運に恵まれ、井垣さん伊藤さんの意見を理解することについて人後に落ちません。

Eメール利用の編集作業とインターネットによる広報は、市内の小学校に生徒2人に1台当りのパソコンが整備されている現状から、各家庭に既にかかなりの数のパソコンが分布しているものと思われ、ニュース記事の書込みと編集は上記の熟練者の方をお願いするかまたは新たにグループを編成して、ニュース1面の「会からのお知らせ」と2面の「WASEDA TOPICS」および、各同好会のスケジュールをネットに流すことは「誰かがやるだろう」ではなく「私も参加して立上げる」で即可能となりましょう。

私自身は退職時に古い機材を整理し使い馴れたワープロだけを残してその殆どを廃棄しましたが、目下新しいハードシステムを検討しております。

- ◎ 年齢のせいで当りが止まったゴルフを諦め切れず、なまじ50才代まで早慶教職ゴルフの選手を務めた夢を引きずっていましたが、当会の園芸クラブの藤沢さんのお陰で花づくりの楽しさを教えて戴き、園芸クラブの課題と自分の好みの花で家のまわりを飾っております。

5月は課題の桜草が終わりに近付きサギ草の新芽が伸びる時期で、特にサギ草は繊細で目が離せません。他に花大根、芝桜、パンジー（黄）は盛りを過ぎ、サルビア、庭植えと鉢植えの紫陽花、朝顔の成長はこれからが楽しみです。

一方、君子蘭の幼葉の色が目立って鮮やかとなり、アシダンテラの球根が細長い葉茎を伸ばし始めました。アシダンテラの花時は秋です。

花の手入れは女性向きと勝手に思い込んでおりましたが、成長過程を楽しみ、花をスケッチして絵画のモチーフとする計画が予定通りとなるか、これからが勝負です。

《 偶 感 》

今から42年前、西暦1958年、元号で言えば昭和33年に当たる年、私は早稲田大学の門をくぐった。といっても門など無い早稲田の杜であったし、大学へ行くと言っても甘泉園の側にある体育館のバドミントン部部室へ通う毎日が始まっていた。

一方で卒業した高校のクラス全員に呼びかけ、「青い雲」と題する会誌を作り、原稿を募っては一人で編集して、45人の仲間と恩師へ郵送する事を開始した。

名古屋の高校から2年の夏に編入してきて、仲間達と十分な交流も無い中で卒業後始めたクラス会誌であった。程なく浪人生も含め10人近くの友人たちが協力してくれる様になり、原稿集めから編集、制作、発送までみんなで我が家の狭い部屋でわいわいがやがやとやりながら、青春のひとつときを楽しんでいた。

勿論、ガリ版刷りである。カリカリと鉄筆が原紙を削る音は今でも耳に残っている。べったりと手について往生したあのインクの匂いも忘れられない。お粗末な小誌であったが、約5年間で20号位になった。

社会人になってからは、さすがに不定期となり現在は休刊状態だが、復刊の要望はクラス仲間からもあり、還暦を期に定期復刊する予定である。

「青い雲」を通じて得た友情は何ものにも代え難い。同期の中で一番結束が固いと評判のクラス仲間達とは折に触れて顔を合わせ、往時のマドンナも一緒に夜の新宿を闊歩しているが、流石に時代の変化を思わずにはいられない昨今である。

話変わってこの「稲門会ニュース」も40号に近くなっているが、私もゴルフ同好会の記事枠を中心に関わらせていただいている。忙しい時代に手書き原稿を取り集め、字数を数えながら割付をしていくという古風な編集法よりも、Eメールで編集者の元へ送信し伸縮自在の加工をして、会員各自のパソコンに一斉配信すれば、事は簡単である。またそれが可能な時代になっている。ポストマンも必要ない。ホームページで全部解決する事も出来る。今や手紙でさえもパソコンで打ち込めば翌日相手に配送してくれるハイブリッドメールの時代である。私も重宝している。

しかし、「稲門会ニュース」が一気にホームページ化したとすると、稲門会は実体を成さなくなりそうである。パソコン仲間なら「早稲田」のくくりは何も必要ない。顔を合わせなくても用が足りるなら知らない相手同志でも何ら不都合は生じない。

ピンポンとチャイムが鳴って、表に出ると自転車に乗った当間さんが、「遅くなってすみません。テニス同好会の原稿です。」と門の所に立っている。そして短時間ではあっても会話を交わす。先ほどまでは「遅いな全く。毎月のことなのに。」と思っていたのが顔を見れば「わざわざ持って来ていただいてすみませんねー。」となるのが人情である、この感触を失いたくない。コミュニケーションというのは、もののやりとりではなく、情の通い合いではないだろうか。「情報」は「情けに報いる」と書くではないか。

この先しばらくは、合理的、効率的な面と、情緒的、ゆったり面の綱い交ぜの中で「稲門会ニュース」紙面の充実に微力ながら協力させていただく積もりである。

(文責 井垣)